

# 単元名 「あまりのあるわり算」 (第3学年 A 数と計算)

## ■本事例のポイント ※特別支援学級（自閉症・情緒障害特別支援学級、在籍2名）での授業

1. 具体物やパソコン等で操作活動ができる環境を整えることで、視覚的に問題を捉えられるようにした。
2. 問題場面や日常生活の場面を想起させることで、学習調整する姿や、計算を生活に生かそうとする姿の実現を目指した。

## ■単元の目標

割り切れない場合の除法の意味や余りについて理解し、計算の意味や計算の仕方を考えたり、計算に関して成り立つ性質を見いだしたりするとともに、その性質を活用して、計算を工夫したり計算の確かめをしたりする力を養う。

## ■単元の指導計画（8時間）

### 第1小单元

#### 「あまりのあるわり算」

- ・割り切れない場合の計算の仕方を理解する。
- ・余りと除数の関係を理解する。
- ・割り切れない場合の除法の計算について、答えの確かめ方を理解する。
- ・割り切れない場合を含む、除法の計算ができる。

### 第2小单元

#### 「あまりを考える問題」

- ・余りの捉え方について理解を深める。

### 第3小单元

#### 「学習を振り返り、まとめる」

## ■本時の概要

### 【問題Ⅰ】

ケーキが23こあります。1箱に4ここのケーキを入れていきます。全部のケーキを入れるには、箱は何箱あればよいでしょうか。

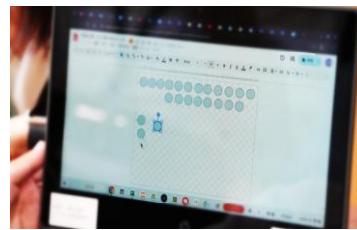
しき  $23 \div 4 = 5$ あまり3  
こたえ 5? 3? 5はこ3  
（※ あまりはどうしたらよいか考えよう。）

### 【問題Ⅱ】

タイヤを4こ使って、おもちゃの車を作ります。タイヤは30こあります。車は何台作れますか。

商がそのまま答えになる場合の除法も本時で扱うことで、余りのある除法を統合的に捉えられるようにしています。

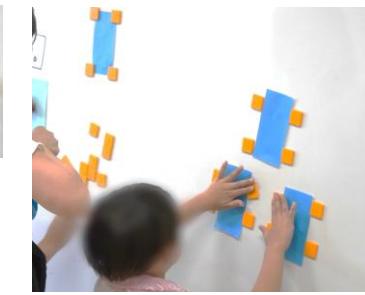
### 【学習活動の様子】



図形描画機能やワークシート、ブロックを用いて自力解決する。



具体物（いちごの磁石、折り紙、ブロック）を操作して二人で検討する。

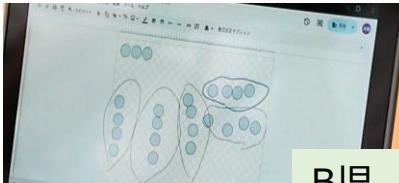


本時の内容を振り返りまとめた後、適用問題に取り組み、評価に生かします。



## ■ 学習調整をしている子供の姿

### 【問題 I】



5箱だ！

A兒

これ（余った3個）はどうしますか？

友達にあげる。

?

いちごを使ってやってみよう。



具体物を使って操作をするが、3個は「余り」としてしまって、問題場面の答えに結び付けられていない。

Bさんは悩んでいますね。折り紙を箱に見立てて、いちごを入れてみましょう。



問題場面を再確認しながら、操作を行う。

全部入っていない。箱がもう1つ必要だ。



6箱です。

箱は何箱になりましたか。 

## ■授業づくりの工夫

- パソコンの画面をプリントアウトしたり、ブロック操作を写真で撮ったりして、操作の様子が視覚的に残るようにした。
  - 前に出て具体物を操作したり、ホワイトボードに書いたりすることで主体的に学習に参加できるようにした。
  - 自力解決、全体共有と時間を区切らず、子供の進捗状況に応じて学習形態を変えた。



## ■指導と評価の工夫

## ①子供の問題解決の様子に応じて、具体物を提示

- \* 進捗状況に応じた支援ができる。
  - \* 段階的に問題場面の具体に近付けていくことで、計算結果と問題場面を結び付けられるようにする。

## ②子供のつまずきを見取り、それに応じて支援

- \* 問うことで、子供の考えを明確にしたり、気付きや学習調整を促したりすることができる。

## ■成果（○）と課題（▲）

- 具体物を操作することで、子供は解決結果を日常の事象に意味付けることができた。そのため、子供自身が結果を見直し、余りの処理の仕方を理解することができた。
  - ▲場面によって処理の仕方が異なることをまとめる際に、子供の言葉を引き出したが、語彙が少なく表現が難しかった。必要に応じて教師から教えることで、定着につながると考えられる。